

## デンマークにおける初期職業教育：制度の概要とガバナンス

嶋内 健

本稿はデンマークにおける職業教育に関する調査の中間報告である。とりわけ本稿は初期職業教育（Initial Vocational Education and Training）に焦点を絞っており、それはデンマークでは“Erhvervsuddannelser”（以下 EUD）と呼ばれるコースに相当する。また、2014 年 8 月 25、26 日に実施した聞き取り調査の内容を反映している。訪問先と面談者は以下のとおりである。

表 1 2014 年度調査の訪問先

訪問先	面談者	
教育省	Jan Reitz Jørgensen 氏	Senior Advisor
Teknisk Erhvervsskole Center (TEC)	Jens Blemmer 氏	Consultant
	Vibeke H. Nørgaard 氏	Head of International Relations
	Morten Emborg 氏	Vice Director
Fagligt Fælles Forbund (3F)	Susanne Wind 氏	Educational Consultant
Dansk Industri (DI)	Anja Trier Wang 氏	Senior Advisor

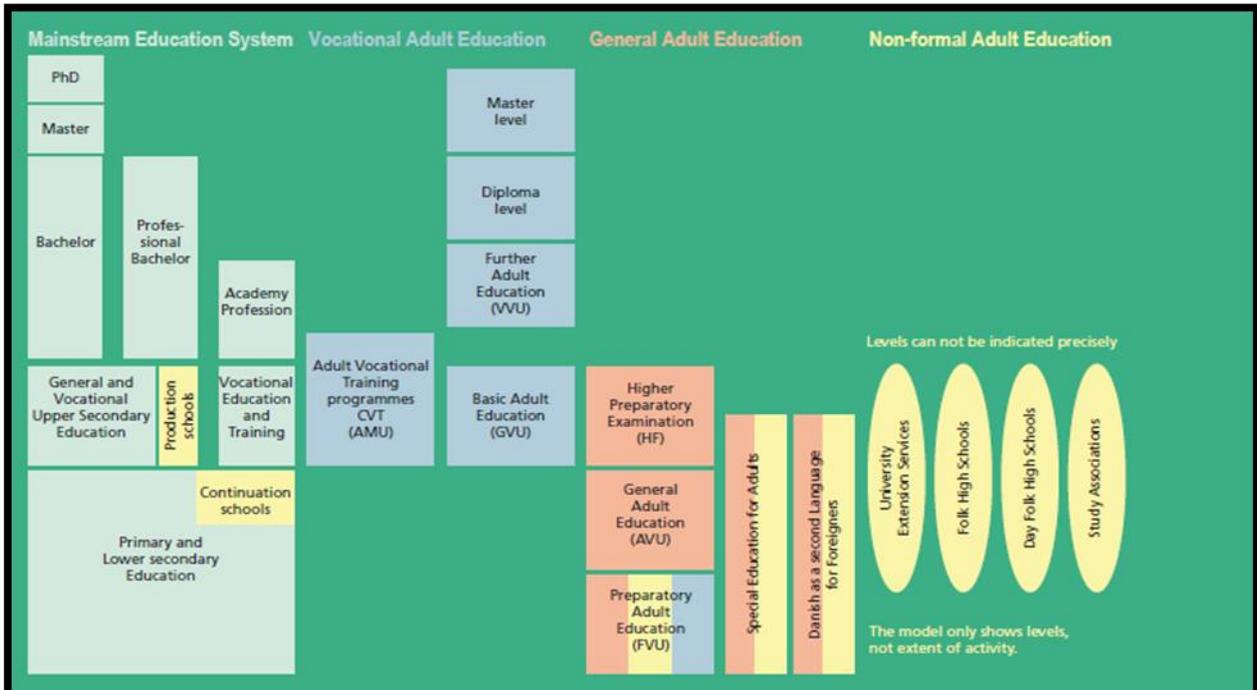
### 1. 初期職業教育制度

#### EUD の概要

まず EUD の位置づけを教育システム全体から俯瞰してみよう。図 1 はデンマークの教育システムを示している。図によると、デンマークの教育システムは 4 つの柱から成り立っている。それらは左端からメインストリーム教育システム、職業成人教育、普通成人教育、非公式成人教育の 4 つである。EUD はメインストリーム教育システムのなかの“Vocational Education and Training”に相当する。下に“Primary and Lower Secondary Education”が配置されていることから、それは後期中等教育に該当するが分かる。前期中等教育を卒業した若者は、基本的に“General and Vocational Upper Secondary Education”または EUD を選択する。前者はギムナシウム (STX)、高等商業学校 (HHF)、高等工業学校 (HTX) 等を含んでおり、卒業資格は上位の高等教育への進学資格となる。ただ、これらのコースは職業資格は提供しないので、あくまで「普通教育 (Gymnasiale uddannelser)」のカテゴリーになっている。若者はこれらへ進学する割合が高い。他方で、「職業教育」に属する EUD は若者に熟練労働者として労働市場へ参入する資格を提供しており、学校から就労への移行という点において高い実績をあげている。また、政府は 2020 年に向けて熟練労働者の需要が増加すると見込んでいるゆえ、本コースはデンマークの成長と雇用にとって重要な役割を担っていると期待されている<sup>1</sup>。

全国にあるおよそ 100 の職業教育学校、そして企業が EUD のプログラムを提供している。学校には諸々のタイプがある。例えば、農業系、工業系、医療福祉系の学校が存在する。これらの学校は自治体や国からは独立した非営利組織として運営されている。入学可能なのは前期中等教育の卒業資格を有する者、または若者ガイダンスセンター (Ungdommens Uddannelsesvejledning) によって職業教育プログラムに取り組む準備が整っていると判断される若者である。しかし、近年の教育改革によって、新たに入学要件に前期中等教育での成績が用いられることが決定している。必要とされるのは、第 9 学年時の国語と数学において「02」の水準をクリアしていることである。これは 7 つある成績評価のうち上から 5 番目に相当するものであり、合格に必要な最低成績に相当する。これをクリアしない学生は、第 10 学年において当該水準を達成する教育を受けることになっている [Undervisningsministeriet, 2013, s14]。改革は 2015 年 8 月より施行予定である。

図1 デンマークの教育システム



出所: The Danish Agency for Universities and Internationalisation, 2011

EUD は学校での教育を中心とするベーシックコース (grundforløb), ならびに現場での実習訓練 (徒弟訓練) を中心とするメインコース (hovedforløb) から組み立てられている。メインコースはいわゆるデュアルシステムであり、学生は学校での教育と企業での実習を交互に経験することになっている。ベーシックコースを修了すれば、メインコースに進級することができ、メインコースを修了 (卒業試験に相当する職人テストに合格) すれば、将来の熟練労働者候補として労働市場へ参加することが可能となっている。どのような職業コースを選択するかにもよるが、基礎コースでの教育開始からメインコースの修了までは、1年半～5年程度の期間を要する。メインコースで教育をスタートするには、学生は実習先の企業と実習契約 (徒弟契約) を結ぶことが必須条件となっている。なお、比較的新しいコースとして EUX が設けられている。これは特定の分野において、2つの資格の提供を目的としている。すなわち、それらは EUD が提供する職業資格と、高等教育へ進級するための資格である。職業教育に加えて特定の科目を履修することが求められるため、履修期間はより長期間におよぶ。

EU における EUD の教育水準についても言及しておこう。European Qualification Framework (EQF) への参照として、デンマーク政府が作成した National Qualification Framework (NQF) においては、EUD における教育訓練は、レベル2からレベル5に位置づけられている<sup>2</sup>。NQF のレベル2から5は、いずれも EQF における同レベルに対応している<sup>3</sup>。最も低いレベル2は基礎的な職業教育訓練の資格証明となっており、補助的な仕事の資格に相当する。レベル3は介護ヘルパーや技術アシスタント、レベル4は医療アシスタントや技術者、レベル5は映像・TV 制作技術者や航空機整備士のための職業訓練の資格証明となっている [Danish Evaluation Institute, 2011, pp.22-4]。

### ベーシックコースとメインコース

ベーシックコースは修了後のメインコースへの進級につながる。表2が示すように、ベーシックコースには12のプログラムが用意されている。プログラムにもよるが工業系で10-60週、商業系で38-76週の教育が実施される。学校ベースの教育および訓練が行われ、おもに理論やワークショップでの教育が中心となっている。修了の判定は学校が任命する外部の試験管が行う。修了すれば、それがメインコースへ進む資格証明となる。ただし、ベーシックコースの修了資格のみでは、労働市場へ参入資格とはならない。後述する TEC の職員も述

べていたように、EUDの要は企業での実習をともなうメインコースにあるとあってよい。

表2 EUDにおける教育訓練プログラムの数

	ベーシックコース 12プログラム	メインコース 100以上のプログラム	専門科目
1	自動車・航空機・その他	6プログラム	22
2	建設	15	38
3	建物管理	3	6
4	動物・植物・自然	9	31
5	ボディ&スタイル	3	4
6	食品	11	29
7	メディア	7	10
8	商業	8	25
9	製造・開発	30	71
10	電気・IT・マネジメント	7	27
11	医療・ケア・教育	4	7
12	運送・ロジスティックス	7	31

出所：教育省プレゼンテーション資料

メインコースには110のプログラムがあり、それらをさらに特定の職業分野に細分化した専門科目がある。表に示されているように、EUDにおいて最も科目が充実しているのは、「製造・開発」分野である。しかし、若者に最も人気があるのは「商業」分野となっている。労働市場の需要と学生数のバランスを一致させるために、メインコースにおけるいくつかのプログラムは入学に制限が設けられることもある。このメインコースにおいて学生たちは、実際に企業で働いて賃金を得ながら技能を修得する。実習にあたっては、学校が仲介者となり学生は実習先の企業と徒弟契約を結ばなければならない。企業側が学生に支払った賃金は、「経営者教育訓練基金 (Arbejdsgivernes Uddannelsesbidrag)」から償還される仕組みとなっている<sup>4</sup>。学生を受け入れる企業は、実習先としてふさわしい資格を備えている企業として認定されていなければならない。デンマーク企業全体のおよそ3分の1が実習先となっている。後述するように、この認可については労使を中心とする職業委員会が大きな役割を担っている。

前述したようにメインコースはデュアルシステムとなっており、企業と学校の往復を繰り返す。教育期間は工業系で3・3年半、商業系で2年が一般的になっている。学生はこの期間中に4ないし5回ほど学校へ戻り、おもにプロジェクトベースの教育に取り組む。例えば、企業で10週間の実習を経験したのち、いったん学校へ戻り数週間の学習を経て、再び企業での実習を行う。デンマークではこうした方式を「サンドウィッチ・システム」と呼んでおり、これは1週間内で学校と企業を往復するドイツ的なデュアルシステムとは異なっている。

プログラムへのアクセスにはおもに2つの経路がある。ひとつはベーシックコースでの学習を経て、企業と徒弟契約を結びメインコースに入るものであり、これが一般的な経路である。もうひとつはベーシックコースに先だてて企業と契約を締結し実習訓練に直接入り、その後ベーシックおよびメインコースへ進む経路がある。これは比較的新しいアクセス方法であり、2006年から一部のメインコースのプログラムを除いて可能となっている。CEDEFOP [2012]によると、2010年に前者の経路でアクセスした学生が23,376名、後者が1,964名となっている。

メインコースにおける最終試験は、学校で行われるプログラムもあれば、「職人試験 (svendepøve)」が実施されるプログラムもある。職人試験は学校を含めた「地域職業教育委員会 (Lokale Uddannelsesudvalg)」が実施する。この地域職業委員会はコーポラティズムの組織であり、労使が深く関与している<sup>6</sup>。地域職業教育委員会が外部試験管を指名し、試験管たちが学校の教員とともに学生を評価する。試験内容は職業教育委員会との協議し学校が開発する。試験に合格すれば、熟練労働者候補として労働市場へ参入が可能となる。その他、同委員会の任務としては、中央の職業委員会に対して教育訓練を提供するのにふさわしい地域の企業を認可す

るよう提言を行っている。

## 2. 初期職業教育のガバナンス

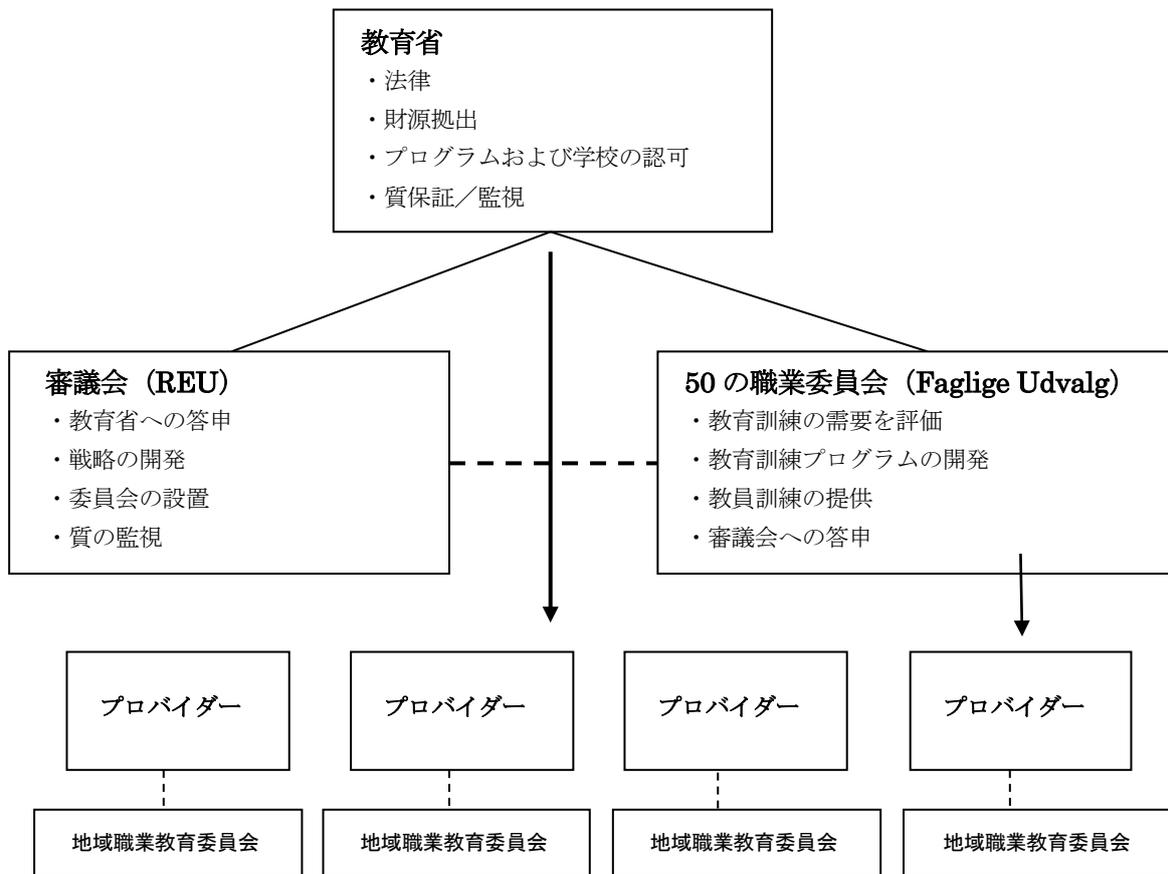
前節では EUD 制度の概要を説明した。続く本節では、その制度がどのようなガバナンスによって支えられているのかを確認しておきたい。なぜなら、そうしたガバナンスのあり方こそが、デンマークの職業教育システムを理解するうえできわめて重要な要素と考えられるからである。結論からいえば、全国レベルから地域の学校レベルにいたるまで、労働組合と経営者団体が深く関わっていることがデンマークの特徴である。雇用の最前線で労働市場の状況を十分に把握しているこれら2つの団体が、職業教育の意思決定に参画している意義は非常に大きい。実際の教育を行っているのは学校と企業であるが、こうした現場が労使の意見を教育訓練に反映させることで、教育内容の質保証に貢献しているのである。これらに政府を加えた政・労・使の伝統的なコーポラティズムによる統治が強固に残存している。デンマークの政治過程におけるコーポラティズムの重要性は、これまでも政治経済学の研究によって指摘されてきたが<sup>7</sup>、地域の学校レベルでも労使を中心とする諸々のステークホルダーを巻き込んだ意思決定のあり方が浸透している実態を、今回の調査を通じてあらためて確認することができた。

図2は EUD のガバナンス構造を示している。まず政府の役割をみていこう。中心的なアクターは教育省（Undervisningsministeriet）である。教育省は法律、財源、プログラムおよび学校の認可、教育訓練の質保証・監視、プログラム全体の目標等に責任を負っている。

次に「基礎職業教育審議会（Rådet for grundlæggende erhvervsrettede uddannelser: 以下 REU）である。現在31名のメンバーがおり、教育省、主要な経済セクターの経営者団体および労働組合、地方自治体、職業学校校長、教員労組、学生組織などの代表者が着任している<sup>8</sup>。既存の訓練プログラムを更新する必要がある、またそれらを廃止する必要があるときに、REUはそれらを教育省へ答申する任務がある。また、教育訓練の質が現場で担保されているかどうかの監視にも責任を負っている。

「職業委員会（Faglige Udvalg）」は約50の職業別の委員会に分かれており、個々の委員会は11ないし12の業界を代表している。各委員会は表2のメインコースのプログラムに責任を負っている。1つの委員会は10-14名の労使代表から構成されている。委員会の任務はコースのナショナル・カリキュラムを開発、更新することである。これはガイドラインに近いものであり、学校で実践される具体的なカリキュラムではない。開発したプログラムは REU に送られ、REU はこれを教育省に推薦をする。同委員会は EUD における学習目標の設定や、最終試験の基準も作成している。また、先述したように学生に訓練を提供する企業の認可を行っている。その他、職業学校の教員に対する訓練も提供している。以上のように、現場に直接関係する教育の中身に関して重要な役割を担っていることから、職業委員会は EUD システムの中心的な存在といってもよい。こうしたシステムの要となる組織に労使が深く関与しているのである。

図2 EUDのガバナンス構造



出所：教育省プレゼンテーション資料に筆者加筆

### 3. Teknisk Erhvervsskole Center

前節まではおもに国レベルにおける制度の概要とガバナンスを論じてきた。本節では具体的な学校レベルでの取り組みをみていきたい。以下は、8月25日に訪問した職業教育学校の技術職業学校センター（Teknisk Erhvervsskole Center: 以下 TEC）での聞き取り調査をまとめたものである。

#### TECの概要

TECはコペンハーゲン市に5つのキャンパスを構える大規模な職業教育学校である。約750名の職員を抱え、30のEUDプログラムのほか、HTX、成人教育のプログラムも提供している。提供しているコースおよびプログラムとしては、自動車・飛行機等の整備士、建設、建物管理、メディア制作、製造・開発、電気・オートメーション・IT、運送・ロジスティックスなどがある。キャンパスごとに異なるコースを提供している。TECが提供しているコースの一部を紹介すると、表3および表4のようになっている。前述したように、学校と企業を往復するサンドウィッチ型のデュアルシステムになっていることが分かる。

**表3 塗装工コース**

モデル期間:3年3カ月
ベーシックコース 13週
実習
1. 学校期間 10週
実習
2. 学校期間 10週
実習
3. 学校期間 5週
実習
職人試験 2週

出所: TECパンフレットより作成

**表4 電気技師コース**

モデル期間:4年
ベーシックコース 20週
実習
1. 学校期間 10週
実習
2. 学校期間 10週
実習
3. 学校期間 10週
実習
4. 学校期間 10週
実習
5. 学校期間 5週

出所: TECパンフレットより作成

今回の聞き取りを通して、実習契約（徒弟契約）について分かったことがある。コンサルタントの職員が強調していたのは、メインコースへ移行することがEUDの教育については何より重要であるということだったが、学生が実習先を確保することは簡単ではないようだ。選択したプログラムやキャンパスの立地によって、実習契約を見つけられる学生とそうではない学生とに差が出るという印象を受けた。例えば、ITは比較的容易に契約を見つけやすいコースのようである。さらに、学生を受け入れる企業側の事情も契約に影響を与える。例えば、実習契約期間が2年ないし3年という場合、企業側が負担を感じ、契約を渋るケースがあるとされる。したがって、そうした場合は契約期間を負担のかからない1年間に短縮することで、企業に受け入れてもらうような契約を結ぶこともあるという。したがって、契約といっても実は複数の種類が存在することが今回の調査で明らかになった。例えば、通常のフルタイム型契約は1つの企業と契約し、実習と学校の往復を繰り返すものである。これが一般的に理解されているデンマークの職業教育の姿であろう。ところが、なかには複数の企業と契約を交わし、それらを渡り歩くコンビネーション型契約もあれば、実習期間がより短い短期型契約といった契約方式も存在している<sup>9</sup>。TECのプレゼンテーションによれば、2011年3月から2012年3月の期間に「製造・開発」コースにおいてフルタイム型契約の締結は、デンマーク全体で63.3%程度に留まっている。つまり、ひとくちに「実習契約」といっても、内実は学生や企業側の事情に合わせて柔軟な契約方式が用意されているのである。また先述したように、企業との契約を見つけられない学生が一定程度いるので、彼らには学校がスクールベースの教育を提供している。上記期間におけるスクールベースの教育訓練への参加割合は、19.2%にも上っていた。なお、一連の金融危機の影響による悪影響で、近年は実習場所の確保がより困難になっ

ているようである。

### TEC のガバナンス

TEC もまたコーポラティズムのガバナンスによって支えられている。ガバナンスを司るのが、学校委員会である。10人のメンバーと議決権をもたない2人のメンバーから構成されている。経営者団体と労働組合の代表は同数になるように設定されていることが表5から分かる。このように学校レベルにおいても労使が参加しているのは、学校と地域の労働市場のニーズとの関係を緊密に保つ目的があるからである。「その他」の区分は個々の職業学校によって、どのような人選をするのかが変わってくる。TECがデンマーク工科大学の代表を入れているのは、高等工業学校HTXのコースを展開しているからである。HTXの学生をさらに上位の高等教育（大学レベル）への進学につなげる支援をするために、TECとしては大学と協力したいという意向が働いている。議決権はないものの、学生と職員の代表が参加していることも興味深い。TECによると、どの学校も両者の代表を入れなければならないことになっている。また、教育省の役人は委員会のメンバーとなっていない。このことから、TECは国から独立した非営利組織として、自治的な運営が担保されていることが理解できるだろう。同委員会の任務としては、教育戦略の策定、財政への責任、校長の採用・解雇、予算および教育計画の監督などであり、少なくとも年間4回の会議を開催している。

表5 TECにおける学校委員会

経営者団体		労働組合		その他		議決権なし	
DI	2名	金属労組	1名	デンマーク工科大学	1名	学生代表	1名
塗装工団体	1名	電気工労組	1名	基礎自治体	1名	職員代表	1名
TEKNIQ (電気/配管団体)	1名	3F (建築, 農業その他)	1名				
		配管工/塗装工	1名				

出所：TECプレゼンテーション資料より作成

### 4. EUDの課題と今後の研究課題

最後にEUDの抱える課題と今後の研究課題を指摘しておこう。政府は来る2020年までに熟練労働者の需要が増えることを見込んでおり、そのためにEUDの果たす役割は大きいと考えている。しかし、若者のEUD進学率の低下が懸念されている。教育省のプレゼンテーションによれば、第9学年または10学年からの直接の進学率は2001年に32%だったが、2012年に19%に低下している。逆に、普通教育を選択する若者は、ここ10年ほどで約60%から80%に迫る勢いで増加しているのが現状である。これに対して政府は2013年に改革案を発表し、2020年までに25%、2025年までに30%に進学率を引き上げる目標を打ち出した [Undervisningsministeriet, 2013, s10]。

次にEUDに進学する若者の多くが、国語と数学の成績が非常に低いことが指摘されている。これに対しては、第1節で述べたように第9学年時の成績を入学基準として要求することで、解決を図ろうという対策が始まる。労働組合と経営者団体はこうした方針を歓迎する意向を表明していたが、他方で当事者である若者たちのあいだで、こうした基礎学力の成績要求は、技能の習得とはあまり関係がないという指摘や、学力は低いが技能の優れた若者を職業教育から排除してしまうという批判が展開されてきた<sup>10</sup>。

また、若者たちの成績要求の導入に対する懸念は、EUDの抱える最も大きな課題である高い中退率にも向けられてきた。教育省のデータによると2012年に、EUDに取り組んだ学生のおよそ50%が途中で中退もしくは学習を中断している [ibid., p8]。若者たちの指摘は、EUDの入学要件に成績を求めることは、中退率の根本的な解決にならないことへの疑義を意味していた。いずれにせよ、成績要求が始まるのは2015年の8月であるため、政府の改革が中退率の改善に貢献するかどうか、今後の動向を注意して見ていく必要があるだろう。

続いて指摘されているのが、EUDに取り組む年齢が高いことである。ギムナシウムなどの普通教育の平均入学年齢は16歳であるのに対して、EUDは21歳である。卒業平均年齢は普通教育の19歳に対して、EUDは28歳と高齢である [CEDEFOP, 2012]。われわれが見学したTECのワークショップにも26歳の男性が電気関係の教育を受けていた。入学年齢が高いのは、前期中等教育から直接進学する若者が少なく、いったん普通教育や職業（失業を含む）を経由してEUDに取り組む若者がいるからである。加えて、EUDは修了までに5年

間を要するコースがあったり、途中で教育を中断する若者も多かったりするので、卒業年齢はどうしても高くなってしまいます。年齢に関係なく、多様な教育の選択機会を権利として保障することは、デンマーク福祉国家の優れた点であるのは間違いない。教育が権利である以上、学費や教育期間中の生活保障は、国家が責任を負うのが福祉国家としての義務である。しかし、そのことが結果として労働市場に参入する年齢を高くしてしまうことは、国家財政にとって負担であり、かつまた労働市場にとっても若年労働者を利用できないというジレンマになっている。

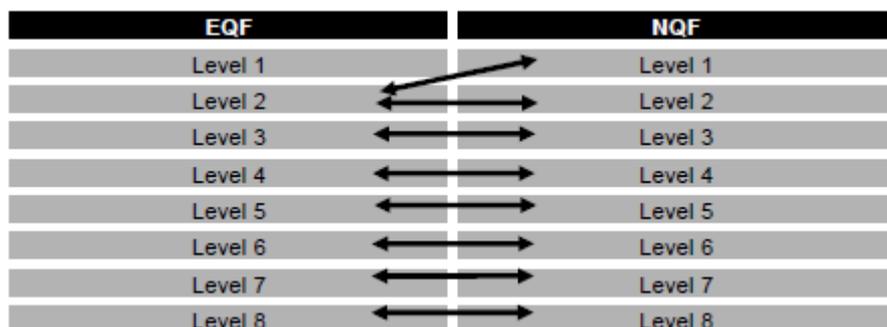
以上のような中退や年齢に関する課題について、残念ながら今回の調査で取り組む余裕はほとんどなかった。また、それとは別途、実習企業での教育訓練の実態、地域職業教育委員会を中心とする労使と学校との具体的な連携の方法についても十分に把握しきれなかった。今後はこうした点に取り組んでいくことを研究課題として指摘し、ひとまず本稿を終えることにしたい。

### 参考文献

- CEDEFOP (2012) *Vocational Education and Training in Denmark: Short Description*, Luxembourg: Publications Office of the European Union.
- The Danish Agency for Universities and Internationalisation (2011) *The Danish education system*.
- The Danish Evaluation Institute (2011) *Referencing the Danish Qualifications Framework for Lifelong Learning to the European Qualifications Framework*.
- Olsen, Karin., Michael Jørgensen og Susanne Wind (red.) (2014) *Håndbog for medlemmer af lokale uddannelsesudvalg*, 3F.
- Pedersen, Ove K. (2006) Corporatism and beyond: the negotiated economy, in Campbell, John L., John A. Hall and Ove K. Pedersen (eds.) *National Identity and the Varieties of Capitalism: the Danish Experience*, Montreal & Kingston: McGill-Queen's University Press.
- Undervisningsministeriet (2013) *Faglært til fremtiden — Bedre og mere attraktive erhvervsuddannelser*.

### 注

- <sup>1</sup> 教育省のプレゼンテーション資料より。
- <sup>2</sup> 海事教育については、例外的に専門職学士に相当するレベル6までの教育訓練を提供している [Danish Evaluation Institute, 2011, p.24]。
- <sup>3</sup> EQF と NQF との連関は下図のようになっている。



出所: Danish Evaluation Institute, 2011, p.7

- <sup>4</sup> すべての学生が企業との契約を結ぶわけではない。このような実習企業を見つけられない学生には、学校がスクールベースの教育訓練を提供することになっている。
- <sup>5</sup> <http://www.uvm.dk/Administration/Tilskud-til-institutioner/Arbejdsgivernes-elevrefusion> (2015年2月24日アクセス)
- <sup>6</sup> 地域職業教育委員会のメンバーとなっている労働組合員は、地域の学校と労働組合の支部をつなぐ仲介者のような役割を担っており、基本的に熟練労働者で高度な知識を有している労働者が選ばれるようになっている [Olsen, Jørgensen og Wind, 2014, s7]。

---

<sup>7</sup> 例えば Pedersen [2006] を参照されたい。

<sup>8</sup> <http://www.uvm.dk/Uddannelser/Erhvervsuddannelser/Fakta/Raad-og-naevn-paa-erhvervsuddannelsesomraadet/Raadet-for-de-grundlaeggende-Erhvervsrettede-Uddannelser> (2015年2月27日アクセス)

<sup>9</sup> <http://www.uvm.dk/Uddannelser/Erhvervsuddannelser/Praktik-i-erhvervsuddannelserne/Uddannelsesaftaler> (2015年2月27日アクセス)

<sup>10</sup> <http://www.dr.dk/Nyheder/Indland/2014/02/25/083229.htm> (2014年3月7日アクセス),  
<http://www.dr.dk/Nyheder/Indland/2014/02/25/120856.htm> (2014年3月7日アクセス)